

○議案についての説明原稿

次に、2月14日開会の裾野市議会3月定例会に提案いたします議案につきまして、ご説明申し上げます。

提案いたします議案は、令和2年度裾野市一般会計予算・特別会計予算・事業会計予算の当初予算案件9件、条例案件16件、補正予算案件8件、その他案件4件の合計37件であります。

初めに、令和2年度当初予算案がまとまりましたので、その概要について、ご説明申し上げます。

我が国の景気は、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されております。

このような中、これまで当市の発展に大きく寄与してきたトヨタ自動車東日本株式会社東富土工場が本年末をもって操業を終了することで、今後の市税収につきましては、法人関係税制改正の影響や海外経済状況によっては厳しさを増すものと想定しておりますが、トヨタ自動車株式会社様から、海外からも注目を浴びる「ウーブン・シティ」構想が発表されたことは、今後の明るい材料として大いに期待しており、この明るく大きなシビックプライドの種を裾野市の未来のまちづくりに向けて、市民の皆さまとともに大切に育てたいと考えております。

さて、行財政構造改革の集中取り組み期間の中間年となる令和2年度の予算編成は、新規事業を原則として見合わせる中で、市民の安心・安全を図り、変化し続ける市民ニーズを的確に捉えたうえで、既存事業の見直しによる新たな事業を盛り込みました。また、財政規律と健全性維持に配慮しつつ、事業の優先度・将来性を見極めたうえで「裾野市の持続的発展」に向けた予算編成を行いました。

特に、公共施設等総合管理計画の基本方針に基づき、役割を終えた公共施設の解体や普通財産の売却など、ファシリティマネジメントを推進する事業については、積極的に歳出を担保しております。

行財政構造改革の取り組みにつきましては、計画を着実に推進することを念頭に、

令和2年度予算において、一般財源ベースで1億652万4,000円の事業費を見直しております。今後も創意工夫による業務の効率化を意識し、市民サービスの向上に取り組んでまいります。

令和2年度予算案は、未来を紡ぐコネクティッド予算と命名し、行財政構造改革の集中取り組みを進めつつ、裾野市が将来的に成長を持続し、裾野市の魅力を市内外に発信出来る事業を精選し、企業を含めシビックプライドを持った市民の皆さんと行政が「オールすその」で、新しい「田園未来都市」を目指し、まるかつて取り組む市の姿勢を示したものであります。

パワーポイントの説明とあわせて、お手元の資料No.3「令和2年度予算附属説明書」の令和2年度各種会計当初予算総括表をご覧ください。

一般会計の当初予算規模は、総額211億6,000万円、前年度より1億9,300万円、0.9%の減、特別会計の総額85億3,220万円と事業会計の総額30億5,792万7千円を合わせた総予算額は327億5,012万7千円となり、前年度当初予算に比べ9,413万4千円、0.3%の増となりました。

一般会計当初予算の状況につきましてご説明いたします。

まず、歳入につきましては、市税収入が100億5,870万円で、前年度当初予算と比べ、5億9,420万円、5.6%の減となっております。その内訳の主なものは、法人市民税が10億6,460万円で、昨年10月の法人市民税の税率引き下げ、及び今年度の企業からの納税実績による見込みから4億3,680万円、29.1%の減としております。

次に、令和2年度より新規に配分される法人事業税交付金は、1億8,600万円を見込みました。

次に、消費税率引き上げに伴い令和2年度の地方消費税交付金は、2億4,930万円、21.8%増の13億9,430万円、国庫支出金は1億6,025万2千円、5.6%増の30億4,211万6千円を見込みました。

財産収入は、旧勤労青少年ホーム敷地や旧職員駐車場などの売却により、前年度

より大幅増の3億1,253万6千円を見込みました。

寄附金は1億2,687万3千円で、今年度のふるさと納税の実績による寄附金の増額見込等により前年度比5,914万7千円、87.3%の増を見込みました。

市債は、16億8,110万円で、福祉保健会館改修事業などの終了により、前年度当初予算と比べ4億5,190万円、21.2%の減を見込みました。なお、財政調整基金の取り崩しは歳入減の影響から7億9,710万9千円で、前年度に比べ1億4,480万6千円、22.2%の増を見込んでおります。

次に、歳出の主な事業につきまして、総合戦略における施策の基本目標に基づいて整理をいたしましたので、概要並びに主要事業につきましてご説明いたします。

資料No.5「令和2年度 主要事業（新規・継続）の概要」をご覧ください。

令和2年度の予算編成では、主要事業を前年度より1事業減の61事業33億2,461万1千円、一般財源ベースで6億5,863万4千円とし、そのうち新規事業は16事業、事業費ベースで3億7,147万8千円、一般財源ベースで8,922万8千円を計上しております。

新規事業につきましては、行財政構造改革の集中取り組み期間中ではありますが、新たな令和の時代を迎え将来の裾野市を築いて行くためには、積極的な補助金の活用やあるもの磨きなどによって予算を投入すると考えた結果であります。

次に継続事業につきましては、45事業、前年度より7事業減少しております。事業費ベースで29億5,313万3千円、一般財源ベースで5億6,940万6千円を計上しておりますが、既存事業の見直しを積極的に実施したうえで、引き続き当市の特色である「ひとづくり」に関連する事業の予算を確保するものと共に、「まちづくり」に関する事業につきましては、早期完了に向けて予算配分を行うこととし、現状を踏まえながら、未来につながる事業を選択いたしました。

資料の2ページをご覧ください。「住みたいまち裾野のまちづくり“共生”」では、昨年に引き続き、子世帯及び親世帯が同居するための住宅取得または改修工事に対し補助金を交付する『三世代同居支援補助事業』を実施し、三世代同居による家族

の支えあいを応援します。

次に『新エネルギー機器等（防災・減災対応型）設置補助事業』では、地球温暖化対策等の一環として、新エネルギー機器の購入に対し補助を行っておりますが、普及の進んだ太陽光発電システムに対しては、既に補助の役割を終えたものと判断し、太陽熱、蓄電池、燃料電池のシステムに特化し、事業目的を明確にした例であります。

4 ページをご覧ください。長泉町との広域的な取り組みとなる『新火葬施設整備事業』では、令和3年度中の供用開始を目指し、引き続き事業を進めてまいります。

次に『御宿土地区画整理助成事業』では、民間の活力を活用し、防災・減災と職・住近接に配慮したまちづくりと子育て世代の定住促進を図るため、昨年12月に事業認可された約100区画の宅地供給が見込まれる御宿土地区画整理事業の推進に向けて助成を行います。

5 ページをご覧ください。新規事業となる『(仮称) 御師公園基本方針策定事業』では、緑の基本計画に基づいて、地域の核となる公園整備の基本方針を策定いたします。

次に、「すべての起点となるひとつづくり“共育”」の『ふるさと納税推進事業』では、令和元年に1億円を超える寄附がありましたが、引き続き新たな返礼品の開発などを進め、寄附額の増額を目指します。

次に6ページの『安全運転支援装置設置促進事業』では、高齢ドライバーの、より安全安心な外出をサポートし、健康寿命の延伸に資するものとして、後付け安全装置の設置補助を来年度に限り行います。尚、財源としてファンケルクラシック基金様からの寄附金を充てさせていただく予定です。

次に『運動公園陸上競技場維持改修事業』では、競技場の機能を維持する改修工事のための実施設計、写真判定機等の備品購入を行います。

8 ページをご覧ください。新規事業となる『若年がん患者等支援事業』として、在宅療養生活などに対する費用の一部を助成することで、若年がん患者などの支援

を行います。

次に9ページの『しずおか寺子屋創出事業』として、希望する児童・生徒に、放課後・夏休みに学力向上ボランティアによる学習支援を行います。

次に『西中学校普通教室不足解消仮設校舎建設事業』では、西中学校区の生徒数の増加に伴い教室の不足が見込まれることから、仮設校舎を建設します。

次に10ページからの「まちやひとを豊かにする産業づくり“共栄”」では、『ユニバーサルデザイン タクシー導入補助事業』として、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、誰もが乗降しやすいユニバーサルデザインタクシーの普及を図るため、事業者に対し1台当たり60万円の補助を令和2年度まで実施します。

次に『地域戦略作物活性化支援事業』では、特産化を目指す“そば”に加え、昨年、新たに試験栽培を開始した“キノア”を地域戦略作物に位置付け、耕作放棄地の解消、6次産業化、新たな特産品の創出に向けて、作付けに対する補助を行います。

次に11ページの『屋上緑化推進事業生産者活動助成事業』として、裾野市ならではの地域産業における稼ぐ力を創出するため、引き続き事業者組織の運営を支援し、販路開拓・拡大等に取り組みます。

次に『スポーツツーリズム事業』として、富士山麓の標高、冷涼な気候等を活用し、陸上競技等の準高地トレーニング合宿誘致に取り組みます。

次に『オリンピック・パラリンピック推進事業』では、本年7月の東京2020オリンピック自転車ロードレース開催に向けて、大会運営の支援や機運醸成、レガシー創出に取り組み、市民の皆さんと共に記憶に残る大会づくりを目指します。

次に『産業連携地域プラットフォーム運営事業』では、分野を超えて裾野市の産業イノベーションを創出するため、企業と地域産業の連携促進を図り、地域の人々のつながりや新たな活動の機会を創出します。

以上が当初予算の概要であります。

次に、令和2年度重点政策につきましてご報告申し上げます。

お手元の資料No.5 令和2年度重点政策をご覧ください。令和元年度は、重点目標として「シビックプライド向上」と「暮らし満足度向上」を掲げ、当市に暮らす方々が、自ら市の魅力や価値を高めることに関わって、地域を良くしていこうとする意識の高まりを目指しました。

特に、シビックプライドの向上は、市民一人ひとりの意識の醸成によるものであり、継続的に取り組むことが、重要、不可欠です。そのため令和2年度におきましても、引き続き「シビックプライド向上」と「暮らし満足度向上」を重点目標とするとともに、新たな時代の流れを力にするため、「次世代型近未来都市の具現化」を重点目標に加えます。

これら3つの重点目標の達成に向けて、「ひと“共育”」、「まち“共生”」、「しごと“共栄”」、「市民協働」、「情報発信」の5つを柱とし、既に実施している事業を含め、「子育てネットワークの拡充」「学校・地域・企業等連携の強化」「新しいまちづくり方針の策定」「地域の稼ぐ力の強化」「市民活動支援の強化」「戦略的シティプロモーションの展開」の6つを重点取り組みといたします。

これらの重点取り組みを実施するにあたり、未来技術を活用し地域課題を克服する社会を目指す「society5.0」やトヨタ自動車が本市で展開する「ウーブン・シティ」構想といった新たな時代の流れを力にし、クリエイティブマインドを持った市民や企業の皆さんと共に、デジタル技術やデータを利活用して市民生活を豊かにする「次世代型近未来都市」の具現化により、シビックプライドと暮らし満足度の向上を図り、裾野市らしい「田園」と「未来都市」が令しく調和する「住み続けたい『田園未来都市すその』」の実現を目指してまいります。

次に、条例案件の議案のうち、主な議案をご説明申し上げます。

資料No.6 「市議会3月定例会議案書」をご覧ください。

第13号議案 裾野都市計画御宿地区計画の区域内における建築物等の制限に関

する条例を制定することにつきましては、裾野市御宿土地区画整理事業により健全で合理的な土地利用を推進し、住宅を中心とする良好な市街地環境やまち並みを形成するため、条例を制定いたします。

次に、第 20 号議案 裾野市国民健康保険税条例の一部を改正することにつきましては、裾野市国民健康保険運営協議会の答申を受け、国民健康保険税の賦課方式等の見直しなどを行うため、条例の一部を改正いたします。

次に、第 26 号議案 裾野市工場立地法に基づく準則条例の一部を改正することにつきましては、一定規模の面積等を有する製造業、電気・ガス・熱供給業の工場に対する工場敷地内の緑地面積及び環境施設面積の基準を見直し、企業立地・立地企業の事業拡大等の促進を図るため、条例の一部を改正いたします。

条例改正等につきましては、以上であります。

次に、令和元年度裾野市一般会計補正予算（第 6 回）につきまして、ご説明申し上げます。お手元の資料No.7 の「令和元年度裾野市一般会計補正予算（第 6 回）の概要」をご覧ください。

今回の補正は、歳入・歳出とも決算見込みによる年間所要額の補正、国庫補助金追加交付を活用した施設整備、及びふるさと納税の寄附金の増額に伴い、既定の予算総額に、3 億 5,400 万円を追加し、歳入歳出予算総額をそれぞれ 218 億 3,900 万円とするものであります。

主な事業の概要につきましてご説明いたします。

現在、工事を進めております深良小学校及び富岡第一小学校校舎耐震補強・大規模改造事業につきまして、国庫補助金の追加交付を活用し事業の促進を図ります。

次に、令和元年 12 月末までのふるさと納税は、前年度に比べ約 3 倍の、1 億 723 万円となりました。寄附金の使途につきましては、寄附者が希望された分野の事業に充てさせていただくとともに、ふるさと納税の状況や使途などにつきましては市 HP にて公表いたします。

第 33 号議案から第 39 議案までは特別会計並びに事業会計の補正予算です。
主に決算見込みなどに基づき所要額の補正予算額を計上するものです。
以上で、私からの説明を終わります。